

祝日/二十四節気	二十四節気/記念日	季節商材	主な催事/商戦
建国記念日(2/11) 立春(2/4) 雨水(2/19)	節分/のり巻きの日(2/3) 海苔の日(2/6) 鮎の日(2/7) ふぐの日(2/9) 煮干しの日(2/14) バレンタイン(2/14)	鍋商材 刺身商材 ごちそう商材	節分 バレンタインセール 入園入学準備セール 冬物一掃バーゲン

## 2月 水産売り場の提案はこれ!

2018年2月。3日は節分、4日は立春と続き、春の訪れ、消費者心理も春に向かいます。

2/3(土)節分。2018年の恵方は『南南東』。今年も百貨店、食品スーパー、コンビニ各社、恵方巻の販売強化がされており、例年以上にふんだんに魚介類を使用した予約ならではの高単価な恵方巻も登場しています。水産売場での、節分=めざしは、消費者心理的にも年々薄れがちとなっており、さらに首都圏では特にこの2~3年、原料となる片口鰯の漁獲減から、真鰯を使っ



ての製品づくりが行なわれ、動きとしては、片口鰯対比2割減の売上となっています。節分=恵方巻の定着から、水産売場では、恵方巻セット、手巻き寿司など、家庭でつくる恵方巻のどちらかと言うとパーツ商品が中心となっています。マーケット変化に向けた対応が必要です。今年節分は、年末に弾みをつけた、国産生本鮭を使った節分提案の商品化等、従来の節分=めざしから、新しい節分提案に向けた核



商品づくりが必要と考えられます。

2/9(金)ふぐの日。各社展開はしていますが、当日販売に絞られてきました。理由は、食品スーパー各社、アウトパック中心のなか、ロスも高く、アウトパックのみで販売しているところは、ふぐではほとんど利益貢献がされていないと考えられます。品質/味が重視された、こまめな品出しができる温度帯変更で販売できる商品開発が求められます。

2/14(水)バレンタインデー。

水産ではなかなか提案しづらいイベントですが、ホームパーティーに向けた魚介洋風提案となります。

家族が好きな、サーモンカルパッチョ、まぐろサラダ等に今年は、原料価格がこなれている、生食用帆立貝柱をふんだんに組み合わせたらいかがでしょう。



まだまだ、気温が低い 2 月。首都圏でも、毎年降雪があるなか、ホットメニューは欠かせません。

但し、単に寄せ鍋的な定番鍋から、ブイヤベース、海鮮鍋など、より魚介をたっぷり入れての具だくさんの提案はいかがでしょう。牡蠣/真鱈/しらこ/海老/ずわい/帆立貝/ぶり/鮭など、具材グレードをあげた提案で。



商売的には、2月は厳しい月と言われていますが、年明けからの景況感の盛り上がりもあります。水産にとって3月以降に向けた、新しい企画、新しいメニュー提案、新しい商品提案の助走月とも言えます。